

前号から引き続き「関係詞」(relativo)とその用法を扱います。少し復習すると、関係詞には以下の8つがありました。

関係代名詞: (el) que, quien, el cual, cuyo, cuanto
関係副詞: donde, cuando, como

前号では、最も基本的な関係代名詞 (el) que および quien の用法を扱い、制限用法と説明用法について解説しました。

さて、続きの今号ではまず「独立用法」について見ていきましょう。独立用法とは先行詞がない用法のことです。または、関係詞自体に先行詞が含まれていると考えたらわかりやすいかもしれません。有名な諺を例に挙げます。

Quien no ha visto Granada no ha visto nada.
グラナダを見たことがない人は何も見ていない。

この文全体の主語は、Quien no ha visto Granada (グラナダを見たことがない人) となります。つまり、quien = la persona que で「～する人」と考えることができます。この例には別バージョンがあります。

Quien no ha visto Sevilla no ha visto maravilla.
セビーリャを見たことがない人は素晴らしさを見ていない。

いずれの韻を踏んでいます (Granada-nada, Sevilla-maravilla)。日本語ではこれに近い表現として「日光を見ずして結構と言うなかれ」があります。

もう1つ独立用法の例として中性の lo que 「～すること」の用例を見ておきましょう。

¡Eso es precisamente lo que iba a decirte!
それはまさに僕が君に言おうとしていたことだ!

さて、次に見るのは el cual です。この関係詞の特異性は、発音上アクセントがあることです (アクセント記号は付けませんが)。基本的な用法は el que と同じですが、より文語的な感じがします。また、長めの前置詞 (2音節以上) や前置詞句でよく使われる傾向があります。例えば, según el cual, encima del cual, a través del cual などです。

Te enseñaré algunas páginas web, a través de las cuales podrás obtener la información útil sobre tu viaje.
君にいくつかのウェブサイトを教えよう。それを通じて旅行に役立つ情報を得られるだろう。

また、先行詞を指す力が強いので以下のように先行詞と関係詞の間に別の要素が来る場合にもよく使われます。

Vinieron muchos estudiantes, la mayoría de los cuales no estaban matriculados en mi clase.
多くの学生がやってきたが、大多数は私のクラスに受講登録していなかった。

el que とは違って el cual には独立用法はありません。

次は関係形容詞とも呼ばれる cuyo (-os, -a, -as) です。文語的で会話では使われません。所有詞 (mi, tu, su, …) の関係詞版だと考えるとわかりやすいでしょう。

Tengo un amigo. Su hermana cocina estupendamente.
友達が1人いる。その姉は料理がとてもうまい。

2つ目の文の su を cuya に代えて1つ目の文に接続します。

Tengo un amigo **cuya** hermana cocina estupendamente.
その姉は料理がとてもうまい友達がいる。

cuyo は「関係詞+所有詞」なので "que su" に相当しますが、実際に que su を使う人もいます。例えば上記の文を Tengo un amigo que su hermana cocina estupendamente とする話者がいます。しかし、「quesuismo」(quesuismo) と呼ばれるこの使い方は文法的に間違いです。

次に数量の疑問詞 ¿cuánto? に対応する関係詞 cuanto (-os, -a, -as) を見てみましょう。基本的に先行詞なしで使われます。現代語では文語的とされ、代わりに todo lo que が使われます。

Juan ha leído **cuantos** libros compró ayer.
フアンは昨日買った本すべてを読みました。
=Juan ha leído todos los libros que compró ayer.

さて、ここからは関係副詞に移ります。疑問副詞の ¿cuándo?, ¿cómo?, ¿dónde? に相当する cuando, como, donde の3つです。いずれも疑問詞だとアクセント付き、関係詞だとアクセントなしです。それぞれ「時」「様態」「場所」の先行詞を受けます。

Éramos muy felices **en aquellos tiempos cuando** íbamos al colegio.
小学校に行っていたあの頃はとても幸せだった。

上の cuando の文は先行詞 (en aquellos tiempos) なしで使うことができます。すると, Éramos muy felices cuando íbamos al colegio となりますが、あれ!、quando は「～とき」の接続詞ではないの?、と思った人、正解です。先に「独立用法」を見ましたが、「時の接続詞」の cuando は、先行詞が省略された関係副詞と考えることもできます (専門家の間でも両論あります)。しかし、意味するところは結局、同じになります。

続いて como の例文ですが、先行詞はむしろ省略した方が自然です。

Te explicaré **(la manera) como** deberías tratar a los clientes.
お客さんに応対すべき方法を教えてやろう。

次は、関係副詞の3つ目、場所の donde の例文です。

Este es **el pueblo donde** nació.
それは私が生まれた村だ。

最後に、「関係詞+不定詞」の表現を見ておきましょう。意味的には「～すべき」または「～できる」という意味を帯びています。

Hoy tenemos muchas cosas **que** hacer.
今日はすべきことがたくさんある。

Ella no tenía ninguna amiga **en quien** confiar.
彼女は信頼できる友人を持たなかった。

関係詞は日本人学習者にとって確かに難関です。しかし、これが使えると一段と語学力が向上することになります。一部に口語ではほとんど使われない表現もありましたが、文章を読む際には必要なことがあるかもしれませんので使えなくても意味が理解できるようにはしておきましょう。



仲井 邦佳 / Kuniyoshi Nakai

立命館大学産業社会学部教授。専門はスペイン語学。著書に『はじめてのエスパニョール』(共著、三修社)、『中級スペイン語一文法と演習』(共著、同学院)などがある。